夕刊
磐城新聞
四月六日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢(郵税拾五錢)
廣告料金 普通欄 一行金六拾錢 特別欄 一行金九拾錢 五號十二字詰一行 (場所指定一回金一圓)
編輯印刷兼發行人 柏木 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞社
(日曜祭日翌日休刊)

随感一束
蛙山人

□武藤山治先生

三月十六日、丸の內の時事新報社に、故武藤山治先生の告別式があつて僕は社から代表してその告別式に參列した。色々と云ふ人はあるが、何としてもあの大鐘紡を築き上げ、新聞界にも雄飛せんとして縦けて來た人だけに、武藤先生にはやはり頭の下がるものがあると僕は思ふのである、一代の實業家として、死に臨んでは不幸とばかり言へぬ程、美しかつたし、言行のキビ／＼した點など、僕は最後まで好きであつた。山本內相や、尾崎行雄氏などがならんで燒香してゐた。講堂の中一ぱいの花輪でとりわけて、白百合の花の多いのなど、故人のああした最後に酬ゆるに、ふさはしいと思へたのである。僕はこんな童謠を一篇作つてみた。但しいゝかどうかは僕にも分からない

○武藤社長

はしる電車の
中にゐて
武藤社長を
おもひ出す
こゝは鎌倉
山の內
山にさくらも
咲きました

正しい社長を
かばはれて
雄々しく死んだ
青木さん
武藤社長の
お伴して
いま天國に
居られるか

電車の中で
目をとぢて
しづかに冥福
いのります

をかしなもので、武藤山治先生が不慮の遭難をせられる前夜、丸の內會館に僕等の社長の招宴に列して僕は武藤先生の噂をきいてゐた。と云ふのは社長の宅にその日法事があつて、その法事代を節して時事新報の社會事業團へ若干の金子を社長が寄附された。武藤社長に手渡されたことを席上で報告されるのを僕は聞いたのであつた

惜しい人物だと思ふ

春日吟
加藤欽也

某飛行場に入社せる島田蛙人より寫眞送り來る

○飛行服にいさむ姿や魁偉なる顏には常の如く髯生ゆ
○エンヂンの耳を聾する工場に働く人の緊張ぞ見ゆ
○浮べたる笑まひのさまは寛けけれ生活意識に充實ぞせめ
○苦しみし過去知りければ此のゑまひ心に沁みて見るべかりけり

潮聲
第六十五集

○雜詠　丹羽翠雨選出（吟七十章）

通夜

柴垣の雪ちらしけり三十三才　枯萍
雪解の道に消害の落ちてあり
兒等下げる黑き草紙や風光る
筧落つる水のひゞきや春寒し　芳月
泥吐かす蜆を桶に養へり
波の音夜深く冴えるばかりなり
さゞ波の目かなよせくる芦の角
葱の花畦間に長き影ゆれて　石城
日の椽や春を寒がる病上り　文狂
頂は旭に映ゑて山笑ひけり　竹羊
谷鶯にさし入る枝や綠立つ　眞砂常
新參のおと／＼しやもの哀れ　香村子

學藝消息

島田忠夫四月號發表目錄

○『短歌春秋』アララギ批判(論文)愚庵雜考(研究)業餘吟(作品)
○『短歌と方法』歌壇批評(論文)片邊身々二十首(作品)
○『生誕』童謠私見(隨筆)春のお寫眞(作品)
○『子供の詩研究』愚庵和尚(研究)
○『ゐろり』隨想錄(隨筆)
○『ローマ字の友』ローマ字のこと考へて(作品)

社會の今日

4月7日

△法然上人生る(長承二)　△海相候補難にて清浦內閣不成立に終る(大正三)　△暹羅兩陛下御來京(昭和六)

○

化粧して遊びゐる夜の朧かな　柴舟

足のむくまゝにうかうか月踏んできのふ出逢つた道に吾居る　河東ひと丸

講談　浪人長屋

日岐武志作　月草道子畫

(55)　別離

『母上、江戸の兄上とともに力を合せ、必ず本懐を遂げて歸參する覺悟です』

旅衣に草鞋をきりゝと頸いてきつぱりといつた鐵彌の姿を母小花はこよなくたのもしくうち眺めて

『目出たく歸參する日を待ちます道中氣をつけよ』

と、りんとして、いつた

『お兄さま』

と、傍から小菊はもう涙を浮べて見上げた

『ご無事で……』

『小菊、お前も達者で母上に仕へるのぢやぞ』

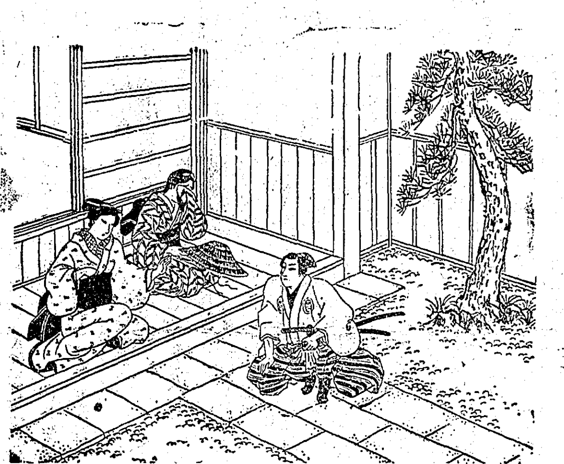
『はい』

といふや、よゝと母の膝に泣き伏した。別れを惜むこゝろが胸に一杯あふれてゐるのだ

けれど人目がある。表には見送りの村人たちが來てゐる靜香は、うつむいたまゝ顏をあげなかつた、顏をあげたら涙が出るのだ

その心が鐵彌に分ると、ぐつと込みあげてくるものを堪へて

『母上、小菊、靜香どのではさらばぢや』



『お兄さまツ』

『躰を大事にせよ』

鐵彌は表に立ち出でて、そこにゐる見送の人々に挨拶した

『さア、乘ッかつておくんなせゑまし』

と馬子の太七である。太七はどうでも輕井澤か峠あたりまで、お供をしたいと申し出てきかないのだつた

『太七、相すまぬなあ』

『なんの、若旦那さま、こんなことでもしなきや、ご奉公することのねえ俺なんだで……』

馬は直ぐ歩き出した

『皆の衆、では行つて來ます』

『旦那さま上首尾を待ちますだよ』

『道中お氣をつけなせえまし』

わツと人目もはばからず泣き出したらしい小菊の聲を後ろに聞いたが、鐵彌は振りかへらなかつた

うらゝかに晴れ渡つた、秋の朝の追分である兩側の家々は、まだ戸を立てゝゐた。その一軒々々にも鐵彌は名殘りが惜まれた

生れて始めての一人旅である、しかし亡父の仇討ちだ

——本懐を遂げるまで二度と歸らぬぞ——鐵彌は馬上で堅く心に誓つた。宿外れの松並木にさしかゝつた時だつた、後から誰かが呼んだやうな氣がしたので振り返つてみると、靜香が走りながら追つてくるのである、太七も氣がついて馬をとめた

靜香は、やうやく追ひついた

『あゝ、お靜さんだ』

『鐵彌さま』

と、いつて限りない思ひを浮べて見上げた

『靜香どの』

靜香は下から手を差しのべて

『これは、八幡さまのお守りです心をこめて作つたつもりです』

『かたじけない、そなたと思ふて大事にしようぞ』

『うれしうござんす、あなたのお歸りを靜はいつまでも、いつまでも……』

といひさしたとき、咽喉がつまつて來たらしかつた眼と眼が、はげしく燃え合つた

『鐵彌さま、御無事に』

といふや否や、靜香は涙を見せまじと馳出した

『靜香どの』

鐵彌は後ろから呼んだが靜香は宿の方へどんどん馳けて行つて、振りかへらうとはしなかつた、走りながら泣いてゐるらしく、袂で顏を時々拭ふ樣子が、いぢらしい姿が宿場の方へだんだん小さくなつていつた

『なんて、いぢらしい娘だろ』

といつて、太七は拳で鼻をすゝりあげた

似而非『唯物史観』
大友武

(3)

客觀的運動それ自体に忠實な辯證法的思惟方法の濾過を經なければ、運動それ自体 共に進展する發展的考察ではあり得ない

それは、發展に對する固定であり、運動に對する靜止である

現實は刻々に動いてゐる動いてゐるが故に、眞理は現實と共に進展する發展的思惟方法を要求するのである

彼等の認識は、經驗の範圍にのみ局限されるが故局部的、感覺的である

假令へば、支那には高度の資本制經濟の發達がないから、近代的意味のプロレタリア革命、起らないといふのは、國際的政治狀勢全体性的考察を忘れた局的、感覺的な實證主義見解である。彼等に『全体性』(TOTALITÄT)なる辯證法的概念は、『總和』(SUMME)なる概念としてしか理解來ない『全体性』なる交互性は『總和』なる個別的な因果性としてしか把握出來ない

それは何故であるか、われわれは、それについて逐次、その根本に立ちいつて述べるであらう

(ロ)　經驗批判主義について述べる

經驗批判主義は、經驗の總和をもつて法則と考へる點に於いて、實證主義のそれと變りがない。だが前者は『經驗的』であり、『主觀的』であつて、後者は『純粹經驗』的『純粹主觀』的である點に於いて異るであらう

ともに、經驗論をその根本見解とすることは明らかである

例令へば、前者は社會の最終的決定要因を『人口密度の增加』『社會の量的組立』(階級組織)に規定するが、後者は『よりよく生んとする意志』『欲求の增加』の如き意識の實際活動にその決定力を置いてゐる

『階級の考察を以つて社會學の入口となされてゐるところに、高田博士の現代社會學者としての偉大なる特色は存する。博士も亦福田博士と同じく、誤つてかのGEWALTTHEORIE—(結局階級の發生に關して)—を採らるゝのであり、そして後に詳論するごとく、この誤謬の上に結局かの第三史觀は基礎づけられてゐるのであるが』(福本和夫、唯物史觀と中間派史觀)

廣告

●第一線を行く●●●●●
春の中折帽
春ショール
●女學生手提● 六十錢・七十五錢
●女學生靴下● 三足…五十錢
中野洋品店　平二　電53

技術本位
安心して御依頼下さい
時計修理
平字槌小路
高橋時計店
（小店員募集）

祝御入學
柔道着 劍道具
四月一日ヨリ三十日マデ
新學期特賣
磐中 平商 御兩校へ御目出度く御入學の諸兄こ御兩親へ御喜びの御言葉を申上ます
付きましては必需品の柔道着、劍道具は斯界定評ある最優品を御推め申上ます親切なる製造に依る岩崎製柔道衣を丈夫な品質と廉價とを御批判下さい
電熱ほうじ茶本舗 平三
大勝園茶舗
柔劍道具部
電三九六番

ヒナ人形御道具類
特價大賣出し
人形御道具類並に高級御殿等例年通り豊富に山積致して有ります
當店は元來御客樣本位主義を以て大勉强致します。是非御來店の程を御待ち致します。
平町三本目本通り
落花生問屋
際物元祖 叶・加藤商店

特製
雛人形
雛道具
賣出し
例年の通り店內陳列をいたしましたぜひ御覧下さい。たまちいたして居ります。
平町三丁目
金太郎玩具店

雛人形の大市
東京一流の名作品を取揃へ賑々しく陳列いたしました、例年の如く格安品も澤山御座います是非御覧下さい
雛人形一人箱入 三十五錢より
內裏雛 一圓二十錢より
御殿人形 一圓三十錢より參十五圓迄
十五人一揃 六圓五十錢より百圓迄有之候
二丁目の ふくだや

磐城鐵工機械同業組合

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……直に家政婦を派出します。
親切叮寧 料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭 御病人の付添 炊事や雜用 お留守居番 年寄やお子さんの付添
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話〔呼〕六五三）
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

入學記念時計賣出し
お目出度い御入學御進學が近づきました。御祝に是非正カクな御時計及御眼鏡を御求め下さい。學生樣用にかぎり拾ケ年保險付
特價 金七圓ヨリ
近眼鏡(メニス玉入) 金壹圓五十錢ヨリ
右のサービスは三月十五日ヨリ四月十五日マデ
（小店員數名募集）
平町五丁目（釜屋前）
金光堂時計店
電一九五

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
入院隨意
病室完備
（看護婦見習一名入用）
山內醫院
醫學士 山內亨吉
電話六九一番

銘木ト建築木材ノ御用命ハ今一番勉强スル當店ヘ
平町字紺屋町四〇
建築材一式 建具材 便利瓦材
織田材木商店
電話四六〇番
極優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。

派出多忙に付會員募集
一、本會は各御家庭の便宜を計御手不足の場合に臨時に御手傳に上ります
一、姙産婦や患者の附添、家庭雜用一切　派出料一日金五十錢
遠近に不拘堅實なる婦人を派出させます。
福島縣石城郡平町八幡小路八三
平家政婦々人會
會主 鵜沼隆子
電〔呼〕九三
（寄宿の便あり）

眼科專門
賀澤眼科
平町南町
電話七二一番
診療時間 毎日 自午前八時 午後九時迄

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）
藤田女學校前

齒科 口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂 磐炭病院前
鈴木醫院
『入院のお需めに應ず』

お台所を開放して一般の納税心に頼る

『平町の財政に就て』を全町に配付

町税滞納の累加により經理上非常に難澁してゐる町では町の財政狀態を一般に周知せしむる事によつて幾分滞納禍を少くし度いと云ふ處から、九年度當初豫算三十三萬三千百二十四圓の左記大別に夫々説明を附し、尚ほ町税總額十四萬四千三百三十二圓中の過半を占むる特別税戸數割八萬三千九百五圓、此の一戸平均十七圓三十錢と他市町とを比較した『町の財政に就て』なる印刷物を近く全町に配付する事となつた

一、神社に關する費用 八〇
二、會議同 一、九三三
三、教育同 一二七、六二八
町内全戸數四千八百五十五戸の一戸平均二十四圓二十五錢、又小學校に要する費用八萬七千五百六十圓、就學兒童四千二百八十八人の一人當り所要經費二十圓五十三錢
四、土木 一九、三〇四
一戸平均三圓九十八錢
五、水道 二〇、六五〇
同四圓二十五錢
六、衞生 一三、九六六
七、社會事業 六、九五五
同一圓四十二錢
八、行政 四七、八四二
同九圓八十六錢
九、都市計劃 一、二五〇
一〇、勸業 四四〇
一一、警備 二、八二五
同二圓四十四錢
一二、財務其他 二二、〇五三
一三、公債償還 七二、三九九

學校建築、水道擴張工事の爲め借入れる町債の内本年度に於て償還すべき元金であるが、此借入金の償還は均等償還として昭和二十六年度迄は毎年返濟せねばならぬ、元利合せるとまだ五十七萬八千八百八十三圓殘つて居る、九年度の償還金は一戸平均十四圓七十一錢、一人平均一圓五十八錢に當る、尚ほ償高利の分低利借替の爲め前年度に比し二千九百十六圓を減じた

戸數割一戸平均額

區分	賦課額	賦課戸數
郡山	一八、七三〇	九、七三二
若松	一七、〇五一	八、二〇四
福島	二〇、三三〇	八、二四五
原ノ町	一七、九四〇	一、八五〇
白河	一八、七五〇	四、〇〇〇
中村	一七、四二三	二、三〇〇
須賀川	一五、八四五	三、三三〇
喜多方	一七、七二三	二、二三〇

教員の異動増俸を町村に合議せよ

本縣下町村長會に 石城郡支會から提案

本縣町村長會總會は來る二十六日午前十時から伊達郡湯野村小學校において開會と決定し終了後新年度から組織を見た町村吏員互助會の第一回總會も開く事となつて居るが、全國町村長會の岡部會長も臨席する筈である、郡支會の提出事項は『過般の總會に於て決議した從來縣の手で獨斷專行された小學教員の異動増俸を財政上其他凡てに於て緊密の關係に在る當該町村長及學校長にも合議して欲しい』とある一項で他は目下縣地方課內の事務所にたいて整理中であるが匡救事業に關するものが多い中に農村に濁酒釀造を許す可しとの建議案を提出する一項が目立つて居る この問題は各方面で論議されて居たが農村の現狀から見て酒の消費は驚くべき額に上つて居るが農村は擧つて禁酒斷行の出來ない以上は濁酒を造らせる事が經濟緩和のもつとも適當なる方法であり農村自体もこれを希望してゐる事なので注目されてゐる、因に前記郡支會の提案は從來も屢次論議され一般に其の正論を認められ乍ら今日尚ほ實行に至らぬもので今回も提案の結果を氣遣はれてゐる

郡下徴兵檢査日割

五月十七日から平町で

濱三郡に於ける九年度徴兵檢査日割は此程發表されたが郡下(第五徴募區)の日割左の如く徴兵署を平第一校講堂に置き毎日午前八時より執行される

五月十七日—大野、大浦、草野 十八日—四倉、赤井 十九日—川前、下小川組合、内郷 二十日—湯本、平窪 廿一日—小名濱、神谷 廿二日—永戸組合、磐崎、玉川 廿四日—高久、好間 廿五日—鹿島、平 廿六日—入遠野、夏井、平(入寄留者) 廿七日—田人組合、勿來、錦 廿八日—上遠野、江名、山田 廿九日—植田、泉、飯野 三十日—澤渡組合、川部、渡邊、豐間 卅一日—内郷(入寄留者)

函館義捐金千圓突破

平町役場取扱ひ函館義捐金其後の分左の如く累計千六十一圓七錢であると

北目一五圓 役場一〇圓八九錢

各校義捐金

公立分約百八十圓

各校では既報の如く函館罹災見舞金として縣學務課よりの通牒により小學兒童は一錢、中等生徒は同三錢宛、職員は高等官は月俸の千分の一五、判任官は百分の一の割合で任意寄附を募るが概算で磐中は四十圓磐女、第一、第二、平商各三十圓、第三は二十圓見當であると

。。。。磐女教諭往來 磐女では今六日午前十時より左記二教諭の著任披露式を行ひ尚ほ酒井教諭は同校々友會長を代理して水害の久の濱を見舞つた

西川幸雄(福中より)英語 野口ハナ(女高師卒)家事

平町議石山氏

けふ性源寺畔の盛葬

平町會議員石山治三郎氏の葬儀は今六日午後一時材木町の自宅出棺長橋町性源寺に於て執行したが生前交友關係が廣かつた處から會葬者多數、紅紫とりどりの花輪が沿道を彩り非常な盛儀であつた、各方面代表の弔辭中青沼町長及鈴木代議士分次の如し

弔詞

噫 町會議員石山治三郎君突如として二豎の冒す處となり、終に再び起つ能はず、誠に痛惜に堪えず、君や幼にして早く實社會の人となり曾て衆望の集する處推されて納税組合長となり、區長の榮譽を贏ち得る事前後三度に及び、二度議政として夙に濟世利民の志厚く其の功績歿すべからざるものあり、土木業としては隱然たる實手腕を認められ其の第二小學校建設の功は勝れたる君の力量を世に問ふべく求久に記念すべきものあり、今發展の途上にある我平町將來のため君の手腕に待つべきもの極めて多かりしに僅か知命にして忽然として道山に飯る、悲哉、昨の健康なる君の風貌は髣髴として空しく去來す君や出でゝは町政に精勵克く地方自治に盡す所あり入ては家庭の慈父として愛語能く子女を導く、今日近親及交友の誼なるもの悉く君の柩前に伏し追憶の涙に咽ぶ、春淺くして冷雨切りに到り轉た故人を偲ばしむるものあり今日の盛葬に會し懷想禁する能はず、恭しく微衷を陳べ謹みて弔意を表す 尙くば饗けよ

平町長從五位勳五等 靑沼鉾太郎

〇

盟友石山治三郎君の靈に告ぐ、君資性温良重厚、夙に身を修め家を齊へ、少壯實業界に志すや天禀の明敏と濶達、籌算その宜しきを慾らす、縱横無礙の活躍天馬空を行くの概あり、竟に其の大を成すに至る、更に翕然たる郷閭の衆望を鍾めて地方自治に關與し業績亦大に沒すべからざるものあり、而も今後君の經綸に俟つもの蓋し少からざりしに未だ知命半ばを出でず、二豎の爲溘焉として東岱の雲深く隱る、歳々年々人同じからず、玆に春回つて木華梢を飾れども今や其人亡し、吁悲哉、然りと雖公私內外踐むべきを果し爲すべきを遂げ渾然として完成されたる君が珠玉の德風は後人の永く追慕欣仰措かざる處なるべし、君また以て瞑すべきなり、一瓣の香を獻し恭しく弔す

衆議院議員 鈴木辰三郎

全協定會社と均等に保險契約

平町有物件の保險

平町では從來町有物件に對する火災保險は非協定會社にも契約して居たが今後は左記協定二十五會社に契約する事になり今六日午前十一時からこれら代理者を招き協議の結果

(第一校)九萬圓(第二校)十萬圓(第三校)六萬圓(平商)五萬圓

合計三十萬圓は一社宛一萬二千圓の等分に契約する事になつたと

(東洋)松本七兵衛(帝國海上)關内正一(中央)堀喜一(横濱火災海上)松崎菊三郎(東京火災)草野産業會社(千代田)端山正男(日本海上)吉村安次郎(明治火災)根本善吉(帝國)佐々木龍若(三菱海上)新田目春松(東京海上)阿部政右エ門(太平洋)吉田寅之輔(大阪海上)松崎長太郎(第一火災)塙幸吉(東神火災)大谷久藏(扶桑海上)七十七銀行平支店(ニュージーランド)内藏悌治(福壽)井上茂作(豊國)三井富吉(大北)森本盛一(大正海上)櫛田榮太郎(大平火災)石田吉五郎(富國)片倉會社(共同)柏原幸次郎(和和)白土茂仲

入園二百名

第一校少年赤十字

平第一校では明七日午前九時から少年赤十字園入園式を擧行するが新入園兒約二百名あると

新級長さん

けふ第二で任命

平第二校では今六日左記の如く第一學期の級長任命式を行つた

三年—一組田巻隆子、磯貝シヅエ、二組菅野榮子、中島靜子、三組正木田鶴子、佐藤豊 四年—一組千葉玲子、東條正子、二組橫山言子、石川サイ子、三組大嶺悦子、友部宮子 五年—一組梅津吉子、國井アキ、二組馬目靜子、木田秀子、三組酒井良子、江尻キヨ子、四組櫻庭美代、村山任子 六年—一組平澤タカ、桑田隆子、二組齊藤光子、高木絢子、三組端山多美子、佐川周子 高一—一組近藤シヅイ、鈴木ミツ子、二組石井美智子、栗田ブデ、三組佐藤トヨ子、栗田ケイ子、二年—一組鈴木ひで、小野文子、二組格和京子、永山ミヨ子

御前試合福島豫選

平署の出場選手決定

御前試合選手選拔福島豫戰は明七日午後一時から福島武德殿で開かれるが平署から出場者左の如し

(劍道)鈴木五段、高松三段(柔道)草刈、熊田各三段

劍道昇段者

過般平署で行はれた劍道階級試驗に於ける昇段者左の如く決定した

二段—根本行孝(入山)鈴木三郎(平)菊地敏虞(入山)高橋惣兵衛(同)櫻井源之助(內郷)芳賀半三郎(平)齊藤直信(平刑)大平一(大浦)小松留次郎(植田)赤津辰三(大浦)桐原英純(平)齊藤光正(同)大谷次男(同)佐藤勝虎(同)室井誠吾(同)渡邊部温(同)舘內安次(同)草野四郎(湯本) 三段—根本名治(大野)草野又藏(四倉)門馬駿一郎(平刑)內朝雄(好間)須藤徹(飯野)

坑壁と炭車に挾まれ電工夫無殘な轢死

四日萩原炭鑛の椿事

好間村大字北好間字窪田號外一號萩原炭鑛電工夫猪狩眞藏(三九)は一昨四日午後十時頃運炭車に乘り作業中誤つて轉落坑壁と同車に挾まれて轢かれ左肋骨を骨折間もなく死亡した

若者を轢く

江名の鮮魚自動車

江名町北町居住豐間生れ鈴木善吉(四二)は今六日午前十時十分頃鮮魚滿載のトラックを運轉平町五丁目袋屋雜貨店四ツ角にさしかゝつた際横合から驅け出して來た同町鐵道官舍塚本一二(二四)を轢き倒し左足骨折の重傷を負はせ平署の取調べを受けてゐる怪我人は目下木村外科醫院に入院加療中

艶界黒白

◇平のカフエーも銀行附近の明朗な處になると女給連がフラアーキ—だのフラアーゲートだのと盛に通がつて飯野、平窪あたりの中堅青年を煙にまいて居るが◇近頃では更に町の不良連が人肉市場のドブップチを指して『アマゾン河』と稱して居る、わけと云ふのは阿庇で損した川岸通りだつて奥行きが無さ過ぎるぢやれえか◇昨日久本から さよ子 かつ子何れも十七才が同時にお披露目『未だ年が若いから巧所拵餞の方はどう…だつて、よせよ』◇人氣商賣の事故大目に見て名前丈けは例によりおあづかりにするが或るウチの或る妓はお客が一寸電話にでも立つと親の時よりこの時とばかり續けさまに獨酌で六七はい引つかけるんだそうな◇有名な野きゆう藝者丈けに之れなフリーバツテング…ではないフリー盃洗グと云つて悦に入つてる由…。

不明判明出奔人

三百圓の懸賞で高女出の一人娘捜索

事務員か?水商賣にか?

群馬縣山田郡矢場川村大字大竹一〇九齊藤喜美(二三)は五年前栃木縣足利高等女學校を卒業後家事の手傳ひ中昨年三月無斷家出した儘消息がないので實母まさ(五七)さんが三百圓の懸賞で百方捜査手配中であるが同人は身長五尺位、中肉で容貌は大して特徴なく事務員或は料理屋、飲食店の女中をして居るではないかと

ウヰンド照明講演 平商工會ではいはき新報主催第四回店頭並にウヰンド裝飾競技大會を機として東京電氣會社照明學校講師小西彦麿氏を招き來

る十二日午後七時よりマルトモホールに於て斯道に關する講演會と全國大都市の屋根看板、ウヰンド、店內ネオンサイン等を十六ミリ映寫機によつて紹介する、尙無料入場券はマルトモビル平商工會事務所に申込れたいと

第二記念訓話

平第二校では來る十一日を以て創立二十三週年に當るので記念訓話その他あると

。。。。第三校家庭訪問 來る十三日より十日間各受持教員によつて行はれる

。。。。郡傷痍軍人總會 來る十日忠魂祭式後聚樂館に於て開くと

前借踏未遂

酌婦十六 歸郷して捕はる

去月廿五日夜前借七百三十圓を踏倒して逃走した平町南町料理業あさひや事引地喜次郎方抱酌婦宮城縣刈田郡白川村字本町八三我妻とみえ(一六)は一昨四日實家に引もどつた處を取押へられた

法の網を潜る群

平區の略式罰金から觀た 娑婆の陽春狂躁曲

。。。。毀れハカリ 平町南町三〇化粧品商橋本幾司(三五)は昨年十月から去る二月頃迄店舗で缺損ある計量器を使用して罰金十圓

。。。。記帳を怠る 平町大町三一古物商横田平藏(五八)は二月十七日赤井村黑澤美義から銅線約二貫匁を買受け記帳を怠り金十圓

。。。。ワナで密獵 上小川村大字福岡字喜平後四八農和崎保次郎(四四)は無免許で罠を使ひ附近山林で山鳩、やまどり各一羽を捕獲罰金二十圓

。。。。ベッタ遊び 湯本町大字湯本字櫻木町一七〇賣藥行商小澤武雄(三四)は去月八日正午頃同町吹谷白鳥ミヨシ方で荒木粂治等と博奕して罰金二十圓

。。。。面倒がつて 平町材木町三六古物商會田安(四三)は去る二月十四日自宅で高萩中之助から古鉋金約二貫匁を一圓五十錢で買受け十五日內郷村御台境濟野次郎に三圓十六錢で賣却し乍ら記帳を怠つて罰金七圓

。。。。第三職員送迎 第三校では今六日花澤訓導の告別式を行ひ、尋二ノ三、四兒童が見送り後小松、大竹兩訓導の新任披露あつた

。。。。級長委員選擧 平商、磐中では今八日級長並に校友會各部委員の選擧を行つた

。。。。高月句會 月次會 來る十六日午後六時より二丁目荻野天仙氏方で開催する

嶄新な花見手拭

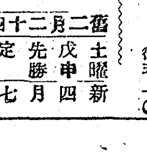
吉田屋染物店考案

定評ある印半天の外近來嶄新な圖案手拭で人氣を博して居る平町五丁目吉田屋染工場では今年も瓢逸洒脫な趣味的花見手拭を賣り出すべく考案の結果此程平小唄音頭を取り入れた數種類を完成し遠近の大小觀櫻團から盛んに注文を受けて居る

。。。。銅線 植田町字添野大平彥太郎(六四)は昨五日午前十時頃銅線三貫目を携帶平町長橋町地內を徘徊、擧動不審のため平署に引致、目下取調べ中

七日

日出 五、二一 日沒 六、〇七 月出前 〇、五九 月沒前 一〇、三七
滿潮前 八、三五 後 —— 干潮前 二、五〇 後 五、一〇



舊二月二十四日 土曜 戊申 先勝 四新 定 月 七 氐宿 日

判定所 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 全家擧つて家業に出精すれば繁昌すべき日▲二黑の人 開發に務めて好成績を齎すべし病厄は注意▲三碧の人 好れい邪智に引込まれて身の破滅を招く凶日▲四綠の人 短慮輕進を愼しみ定業を堅く守り務むべし▲五黃の人 一擧一動他の範となるべき機心掛くべき日▲六白の人 忠言を容れて身の方向を定むれば功現はる▲七赤の人 萬事調ひ福祿亦加はる盛運の日起業開店吉▲八白の人 波も靜かに風穩かに舟行に適當なる如き日▲九紫の人 終日の勞苦も空となりて何等酬ひなき凶日

徽章

團体徽章一ケ一錢ヨリ
御一報次第見本持參仕候

平町田町 ハシモトヤ糸店 電四一

湯殿山教會長伊藤重善氏病氣之處藥石効無ク四月四日午後十時逝去致シ候間乍略儀以紙上辱知各位ニ謹告仕リ候 敬具

追テ告別式ハ四月七日午前十一時ヨリ午後三時マデ平町六間門湯殿山ニ於テ神葬祭ニテ相營ミ申候

四月五日

平町六間門 三山崇敬教會社務所

御會葬御禮

昭和九年四月六日

石山一治